

令和4年4月

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面にて委員への資料送付と意見回収を行った。

1 令和4年度の学校経営について（校長） ※別紙資料参照

2 各委員からの意見

(1) 学校経営への意見について

【委員A】

- ・新しい校長先生を中心に、児童生徒を中心に置いた学校経営を期待する。

【委員B】

- ・コミュニケーション能力は現代社会において大事である。社会人になったときの未来を見据えて、小中学生の時期に段階的に（初等部→中等部→高等部）実現していく力を育ててほしい。金成小中ならではの縦割り活動を継続してほしい。
- ・幼保から小学校へ、また、中学校から高等学校へ確実な引継ぎを行う必要がある。
- ・授業中の立ち歩きや抜け出の児童生徒への対応、不登校や不登校傾向の別室での学習への対応について教えてほしい。
- ・昨年度第2回会議（書面）の意見について、次回会議時に返答を願います。

【委員C】 【委員D】 【委員E】

- ・特になし。

(2) 学校経営方針の承認について

【承認】 6名 【非承認】 0名 【回答なし】 4名

※学校運営方針について承認された。

2 学校運営協議会の時期と回数、内容等について

- | | | |
|------|-------------|-------------------------------|
| ・第1回 | 4月下旬～（書面開催） | 内容：今年度の学校経営についての説明及び承認等 |
| ・第2回 | 7月9日（土）午前 | 内容：学習参観、学校運営の確認、委員の役割分担、意見交換等 |
| ・第3回 | 10月11日（火）午後 | 内容：学校運営の確認、各委員の活動報告、意見交換等 |
| ・第4回 | 1月12日（木）午後 | 内容：学校運営の反省、各委員の活動報告、意見交換等 |

(1) 時期と回数、内容等に対する意見について

【委員A】

- ・適切である。可能なら行事等での児童生徒の姿も見てみたい。

【委員B】

- ・今年度は計画案の予定でよいが、開催時のコロナ感染状況により判断してほしい。

【委員C】 【委員D】 【委員E】

- ・特になし。年4回の開催でよい。

【委員F】

- ・昨年度は全く活動しなかったもので、今年度第1回目は開催してほしかった。他市、PTA等では対面で会議を行っている。

(2) 学校運営のために（子どもたちのために）委員が協力できそうなことについて

【委員A】

- ・学校が必要とすることをあげていただければ、できるだけ協力する。

【委員B】 【委員C】 【委員D】

- ・協力できそうなことがあれば、協力する。

【委員E】

- ・会議が開催できない中で、子どもたちのために何ができるのかを教えてほしい。

1 金成小中学校の学校経営の方針

栗原市教育等の振興に関する施策の大綱の4つの基本方針の一つ、「I. 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり」において、学校教育において『知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成』に努める」と示されている。本校では、これを踏まえ義務教育学校9年間を見通した教育活動を推進し、「自ら目標をもち、未来をたくましく生き抜く子供」の育成に努めていく。

1-1 教育目標

【共生】 共に支え合い、夢に向かって歩む児童生徒の育成

「共 歓」共に歓び、共に分かち合う児童生徒の育成

「共 学」共に学び、共に高め合う児童生徒の育成

「共 励」共に励み、共に鍛え合う児童生徒の育成

1-2 学校経営の方針

前期・後期課程全教職員の英知を結集し、以下に示す学校の創造に努める。

- 基礎・基本の定着の上に、学んだ知識を活用する力を身に付け、確かな学力を育む学校
- 楽しく潤いがあり、優しさと感謝に満ち、社会性・人間性を育む学校
- キラキラ光る汗を流し、真剣に取り組み、健やかな心と身体を育む学校
- 信頼を基礎として、保護者や地域と共に歩む、明るく開かれた学校

1-3 目指す児童生徒像

(1) 1～4年生

- ・よく聞き、よく考えて話をする児童
- ・誰とでも仲良く助け合う児童
- ・よく遊び、運動する児童
- ・みんなと一緒に活動する児童

(2) 5～7年生

- ・課題を見つけて進んで取り組む児童生徒
- ・相手の立場になって考え行動する児童生徒
- ・目標をもって体力づくりに取り組む児童生徒
- ・興味・関心を広げ、何にでも挑戦する児童生徒

(3) 8～9年生

- ・進んで学習に取り組み、互いに高め合う生徒
- ・互いの個性を認め合い、支え合う生徒
- ・健康と安全を大切にして心身を鍛え合う生徒
- ・将来の目標をもち、夢に向かって歩む生徒

1-4 目指す教師像

- (1) 子供主体の授業への転換を目指し、力量向上に努める教師 【授業力】【自己研鑽力】
- (2) 教育者としての使命を自覚し、子供への愛情を持つ教師 【教育への情熱】
- (3) 子供のよさを認め、可能性を信じ、成長を喜ぶ教師 【子供理解】【生徒指導力】
- (4) 地域、保護者との連携や教職員同士の協働・協力ができる教師 【たくましく豊かな人間性】
【学校を支える力】

1-5 目指す学校像

・学校経営の方針で示した学校像を以下の3点で簡潔に示す。

- (1) 子供も教職員も来たくなる学校
- (2) 保護者が安心して通わせられる学校
- (3) 子供、保護者、地域、教職員の誰もが自慢できる学校

2 本年度の学校経営の重点事項

本年度の学校経営の重点事項を以下に示す。

■ 知的好奇心をくすぐる授業の充実

● 学びに向かう力を土台とした確かな学力の育成

- ・ 自主学習への取組
- ・ AIドリル「navima」による個別最適化学習の推進
- ・ ICTの効果的な活用
- ・ 放課後学習会等の学ぶ機会の設定

● 校内研究の充実

- ・ 小中連携での協働による授業づくり

● 国際キャリア学・栗原ふるさと学を中心とした特色ある学習活動の展開

- ・ 社会に開かれた教育課程の推進
- ・ 地域を知り郷土愛を育む教育の推進
- ・ SDGsを意識した活動の推進
- ・ 世界への視野を広げる英語教育の充実

■ 児童生徒の自己実現を図る生徒指導

● 志教教育の推進

- ・ 「かかわる」「もとめる」「はたす」を意識した活動の設定
- ・ コミュニケーション能力や情報活用能力の伸長

● 生徒指導の充実

- ・ 生徒指導の3機能を生かした指導
- ・ よりよい人間関係づくりによる居場所のある学級づくりの推進

● 特別活動の充実

- ・ 自己肯定感を高め、成長を促す指導の工夫
- ・ 縦割り班の活用と活動の工夫による学年間の交流の推進

● デジタルシチズンシップの推進

- ・ 情報リテラシー、情報モラル教育の実施
- ・ 情報活用能力の育成

■ 安全・安心が保障される教育活動の徹底

●体力の向上

- ・体力運動能力調査の結果を生かした重点指導と指導の工夫
- ・業間でのマラソンや縄跳び運動の奨励
- ・個性と能力を伸ばす主体的な部活動の推進

●心と体、命を守る健康、食育教育や防災教育の推進

- ・時機を捉えた避難訓練の実施
- ・幼保と連携した引き渡し訓練の実施
- ・学校生活における教育相談体制の整備
- ・健康を大切にし、習慣化を図る健康教育の推進
- ・食べる楽しさを通して学ぶ食育の推進

●特別支援教育の推進

- ・困り感に応じた支援の充実
- ・支援をつなぎ成長を図る支援計画の活用

■ 開かれた学校づくりの推進

●家庭・地域との連携

- ・学校運営協議会による学校運営の推進
- ・地域の教育力を生かした協働教育の推進
- ・HPや各種の便りによる教育活動の公開
- ・保護者アンケートによる教育活動の評価
- ・PTA活動との連携
- ・幼保や高等学校との連携

学校運営の現状と課題について

0 はじめに

昨年度、栗原市で初の義務教育学校、そして、コミュニティースクールとなり、今年度は2年目を迎えた。

小中一貫校時代は、小学校と中学校の2つの学校が併存している中、1名の校長の下で小、中学校でそれぞれが教育活動を推進しながら小中の連携を図ってきた。昨年度は、改めて9年間の学校であるという転換を図ってきた一年ではなかったかと感じている。本年度は、さらにその意識を高め、全職員で9年間の子供の成長を見守っていくという意識を定着させていきたい。

1 学校運営の現状について

(1) 児童生徒について

① 児童生徒数について

ア 前期課程について〔児童数＝282人（昨年度は286人）〕

特別支援学級を除く各学年の児童数が40人を超えていることから、各学年とも2学級（栗原市の25人学級、35人学級の対象はなし）である。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	知	情	肢	合計
児童数	44	44	46	41	49	49	4	4	1	282
学級数	2	2	2	2	2	2	1	1	1	15

イ 後期課程について〔生徒数＝136人（昨年度は131人）〕

後期課程についても、前期課程と同様に各学年とも40人を超えていることから、各学年とも2学級（栗原市の35人学級の対象はなし）である。

	7年	8年	9年	知	情	肢	合計
生徒数	44	45	43	1	2	1	136
学級数	2	2	2	1	1	1	9

② 児童生徒の状況について

明るく素直な子供たちが多いと感じている。始業式は、出席停止の子供以外は全員が出席という幸先のよいスタートを切ることができた。

立ち歩きや授業の抜け出しが心配された学年は、進級や担任が変わったこともあってか落ち着いた様子を見せている。

二分脊椎症により車椅子の女子は7年生となった。移動時等の補助のため補助員を配置している。地震や火災の際の避難についても全職員で確認をした。部活動については補助員の勤務時間を超えるので複数顧問制とした。校外研修でも補助員が配置できないので保護者へ協力を依頼したが、保護者の参加が難しいようである。

1年生に牛乳アレルギーの児童が入学し、アレルギー食での対応とともに、配膳や食事場所等を工夫し、牛乳に触れないように配慮を行っている。

不登校の子供や、不登校傾向の子供も何人かおり、登校した際は、別室での学習等の対応を行っている。

(2) 教職員について

① 教職員数について

教職員数は、学級数に対して配置される教職員数（見合い定数）と学校の取組に対して追加

される教職員数（加配）に事務職員と養護教諭、そして本校の場合は栄養教諭を加えた職員数が基本となる。

それに、市費の会計年度職員（業務員、業務補助員、補助員）、ALT（外国語指導助手）が加わる。

義務教育学校となり、副校長が加配となったことで前期課程と後期課程との連携が円滑になるとともに校長、教頭の負担が軽減されているように感じている。

教職員数＝見合い定数＋加配数＋事務職員＋養護教諭＋栄養職員　＋　市費職員

ア 前期課程について〔職員数＝30人（昨年度31人）〕

県費の職員は25人（昨年26人）で、市費職員と合わせて30人である。

校長	副校長	教頭	教諭	講師	加配	養教	事務	栄教	市費	合計
	1	1	13	2	4	1	1	2	5	30

県費の加配教員の内訳は、LD通級加配1人、言語通級加配1人、教科担任制加配1人、再編・統合加配1人である。また、市費職員の内訳は、業務員1人、学校補助員3人、業務補助員1人である。

イ 後期課程について〔職員数＝25人（昨年度24人）〕

県費の職員は19人（昨年18人）で、ALTと市費職員と合わせて25人である。

校長	副校長	教頭	教諭	講師	加配	養教	事務	栄教	市費	合計
1		1	13		2	1	1		6 (ALT含む)	25

県費の加配教員の内訳は、児童生徒支援加配が1人。再編・統合加配が1人である。市費職員の内訳は、業務員2人、学校補助員2人、業務補助員1人である。これにALTが加わる。

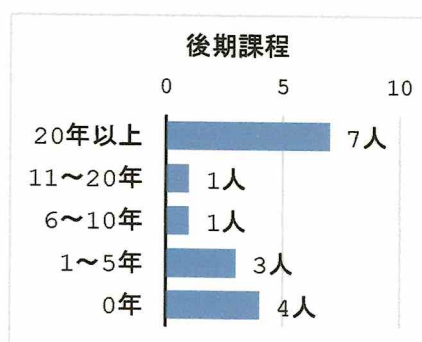
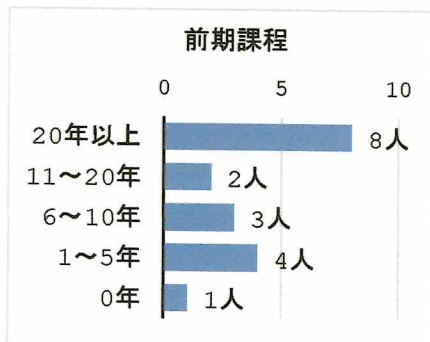
ウ 上記以外の職員数について（12人）

- i 中学校の免外解消として … 家庭科1人（3校兼務）、美術科1人（非常勤講師）
- ii スクールカウンセラー … 前・後期課程に各1人
- iii 業者派遣ALT … 前期課程に2人
- iv 初任研関係 … 初任研指導員 前期課程1人、後期課程2人
初任研後補充 前期課程1人、後期課程2人

② 教職員の状況について

今年度、前期課程に初任者が1人、後期課程に4人が配置された。

授業を持つことができる教頭、主幹教諭、教諭（再任用も含む）の勤務年数の構成は以下のとおりである。



教職20年以上のベテラン層が一番多く、次が5年未満の教員である。ベテランに力を発揮し

てもらい、若手をいかに育てていくのかが大きな課題となっている。

通勤に関しては、栗原市外から通勤している職員も多く、交通事故や荒天時の渋滞等を心配している。

		前期課程	後期課程	合計
市内		20	19	39
市外	登米市	4	2	6
	大崎市	2	3	5
	一関市	3	1	4
	仙台市	1	0	1

(2) 新型コロナウイルス対応について

市内における感染状況が収束していない状況から、文科省から示されたガイドラインや市教委からの通知に則り教育活動をスタートさせた。

毎朝昇降口での検温と健康観察カードの確認、手洗いの励行、教室内の換気を徹底している。

また、各種学校行事は、三密を避けて、保護者の参加者を制限して短時間で実施している。

着任式 … 南側校庭を使用し、短時間で実施

始業式 … 放送により実施

入学式 … 新入生と保護者のみ参加。職員は1年担当と校長、副校長、教頭、教務主任等のみ。

保護者も2名以内と制限して実施。

交通安全教室 … 1・2年、3・4年、5・6年、後期課程で分けて分散実施

身体測定 … 学年毎に実施

学習参観・PTA総会 … 参観は、教室内と教室外での参観を時間で交代して実施
PTA総会は書面決議

部活動における対外試合については、引率計画（保護者引率を基本）とし、感染防止に努めて実施とした。

(3) 職員の働き方改革

長倉前校長の取組をさらに進め、今年度から出勤時にエクセルマクロシートによる客観的な時間管理を導入し、教頭を含めた職員の負担軽減に努めている。

また、金成駐在所と連携し、毎月の街頭指導を双方で月に一度のみ実施することとし、期間も4月から11月までとした。

2 学校運営における今後の課題

本校の特色として、9年間を見据えた一貫した教育の推進とともに、発達段階に即した学年区分を初等部（1，2，3，4年）、中等部（5，6，7年）、高等部（8，9年）の「4・3・2」の区切りを設定している。本校の特色ある活動として9年生までの縦割り班での活動はあるが、現実として、前期課程は低学年部（1，2年）、中学年部（3，4年）、高学年部（5，6年）として活動することが多く、この区切りをどのように生かしていくのかが今後の課題である。

また、教職員は義務教育学校という意識はあるが、コミュニティースクールであるという意識は希薄である。地域や保護者との連携をさらに図り、コロナ化の中で可能な地域や保護者の参画の仕方を模索し、それを土台として子供たちの資質や能力をさらに伸ばし、地域や保護者の信託が得られるように取り組んでいきたい。

共生

目指す学校像

- 来たくなる学校
- 安心して通わせられる学校
- 自慢できる学校

共に支え合い、夢に向かって歩む児童生徒の育成

目指す教師像

- 子供主体の授業に取り組み教師
- 子供の良さを認め、伸ばす教師
- 保護者、地域と連携する教師

共歓	共学	共励
共に歓び、共に分かち合う児童生徒の育成	共に学び、共に高め合う児童生徒の育成	共に励み、共に鍛え合う児童生徒の育成
<p>誰とでも仲良く助け合う 相手の立場になって考え行動する 互いの個性を認め合い、支え合う</p> <p>みんなと一緒に活動する⇒興味・関心を広げ、何にでも挑戦する⇒将来の目標をもち、夢に向かって歩む</p>	<p>よく聞き、よく考えて話を 課題を見付けて進んで取り組む 進んで学習に取り組む、互いに高め合う</p>	<p>よく遊び、運動する 目標をもって体力づくりに取り組み 健康と安全を大切に心身を鍛え合う</p>
<h3>児童生徒の自己実現を図る生徒指導の推進</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 志教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「かかわる」「もとめる」「はたす」を意識した活動の設定 ・コミュニケーション能力や情報活用能力の伸長 ● 生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かした指導 ・よりよい人間関係づくりによる居場所のある学級づくりの推進 ● 特別活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高め、成長を促す指導の工夫による学年間の交流の推進 ● デジタルシナジー教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー、情報モラル教育の実施 ・情報活用能力の育成 	<h3>知的好奇心をくすぐる授業の充実</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 学びに向かう力を土台とした確かな学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習への取組 ・navimaによる個別最適化学習の推進 ・ICTの効果的な活用 ・放課後学習会等の学ぶ機会の設定 ● 校内研究の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携での協働による授業づくり ● 国際キャリアア学・栗原ふるさと学を中心とした特色ある学習活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・社会に開かれた教育課程の推進 ・地域を知り郷土愛を育む教育の推進 ・SDGsを意識した活動の推進 ・世界への視野を広げる英語教育の充実 	<h3>安全・安心が保障される教育活動の徹底</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 体力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・体力運動能力調査の結果を生かした重点指導と指導の工夫 ・業間でのマラソンや縄跳び運動の奨励 ・個性と能力を伸ばす主体的な部活動の推進 ● 心と体、命を守る健康、食育教育や防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・時機を捉えた避難訓練の実施 ・幼保と連携した引き渡し訓練の実施 ・学校生活における教育相談体制の整備 ・健康を大切にし、習慣化を図る健康教育の推進 ・食べる楽しさを通して学ぶ食育の推進 ● 特別支援教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・困り感に応じた支援の充実 ・支援をつなぎ成長を図る支援計画の活用
<h3>開かれた学校づくりの推進</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭・地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校運営の推進 ・地域の教育力を生かした協働教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● PTA活動との連携 ● 幼保や高等学校との連携